

奈良県自転車利用促進計画

<概要版>

1 自転車利用の現状と課題

【自転車利用に関する社会的動向】

- ・ 全国的な健康志向の高まりに伴う自転車利用の増加。
- ・ 観光振興、地域活性化のツールとしての自転車の活用。
- ・ 安全な自転車利用環境の確保に対する社会的要請。
- ・ 環境対策としての自転車利用への期待の高まり。

【県内における自転車利用の現状と課題】

- ・ 大規模自転車道は整備されているが、連続性や周遊性に乏しく、自転車利用者から「安全面が劣る」「案内がわかりにくい」等の指摘がある。大規模自転車道を含む、県下の自転車走行環境の改善が必要。
- ・ レンタサイクルの社会実験の結果、自転車が周遊観光の拡大に寄与することを確認。利用者の視点に立った、自転車の利用環境の改善が必要。
- ・ 県内の自転車交通事故は1,000件／年以上であり、発生箇所の約2／3が交差点。特に、交差点部での安全対策が必要。
- ・ 毎年、数多くの自転車関連イベントが実施されており、イベントの継続・充実が必要。

2 自転車利用促進の目的

自転車による広域的な周遊観光を促す環境づくりを推進することで、自転車ならではの新たな観光スタイルを創出し、県内における滞在型観光の拡大による観光振興や地域活性化を図る。

また、あわせて、自転車の利用促進により、県民の健康増進や環境にやさしいまちづくり等の実現を図る。

3 自転車利用促進に向けた基本的な考え方

安全・快適でわかりやすい自転車利用ネットワークを構築する「ハード施策」とともに、自転車を利用しやすい環境を創出する「ソフト施策」をあわせて実施する。

また、関係者の連携による推進体制を構築し、自転車の利用促進に継続的に取り組む。

4 自転車利用促進に向けた具体的な取組

(1) 『選択と集中』による自転車利用ネットワークの充実

- ・ 既存道路を活用し、まちなか巡りから広域周遊にも対応したネットワークの設定。
- ・ 『選択と集中』の観点から、広域的な周遊観光を支えるネットワークについて、サイン整備等により概ね3年で概成。
- ・ 自転車への乗り換えや情報発信、トイレ、休憩スポット等となる拠点施設の整備・充実。
- ・ サインに関するデザインや色（緑系統）等について、県内で統一。
- ・ 自動車ドライバーに対する注意喚起サインの充実。

(2) 民間事業者、NPO等との協働による自転車利用環境の創出

- ・ 民間事業者やNPO等との協働により、利用者のレベルに応じた施策展開を実施。
- ・ ハイユーザーについては、自転車関連イベントの充実等の「県外からの誘客」を促進するための施策展開。
- ・ ミドルユーザーについては、広域レンタサイクルの拡大等の「滞在時間の長時間化」を促進するための施策展開。
- ・ ローユーザーについては、パーク＆サイクルライド等の「自転車利用者層への引き上げ」を促進するための施策展開。

(3) 情報発信の充実

- ・ HPや専門誌等による、奈良でしか味わえない自転車の楽しみ方の情報発信。
- ・ 地域の楽しみ方を盛り込んだサイクリングマップや隣接する府県とも連携した広域的なマップによる情報発信。
- ・ 自転車関連イベント等を活用した、利用者の安全意識向上に資する取組の充実。

(4) 継続的な取組を支える体制づくり

- ・ 国・県・市町村、民間事業者、NPO、地域団体等が一丸となって、自転車利用環境を持続的に「つくり」、「守り」、「育てる」ことのできる体制づくり。
- ・ 関係者間で目指すべき姿を共有し、民間事業者、NPO、地域団体等の参加・取組意欲を高めるために、分かりやすい評価指標の設定。

(5) PDCAサイクルによるマネジメントの実施

- ・ 評価指標のモニタリング結果を毎年度公表、3年後に中間評価、5年後に総合的な評価。
- ・ 評価指標のモニタリングの結果や自転車利用者のニーズ、社会状況の変化等を踏まえた施策や計画の適宜見直し。